



国際協力の担い手たち

株式会社マンダム

海外経験で 新しい風を起こせ

アジアでのビジネス展開に力を入れる化粧品メーカー、株式会社マンダム。
日本でも世界でも活躍できる人材を育てようと、
JICAの民間連携ボランティア制度を取り入れている。

新しい環境で
自分を磨く

「自分に何ができるだろう?」
普段、どれほどご自身に問いかけ
る機会があるだろうか。日本で就職す
れば、同じ言語や文化を共有しながら
仕事ができる。しかし、異国の全く違
う環境に放り込まれたら。違いを乗
り越え、自分で活路を見いださなくて
はならない。その経験は、人を大きく
成長させるはずだ。
これを狙いとして、JICAの民間連
携ボランティア制度[※]を活用し、社員を
青年海外協力隊員として開発途上国に
派遣している企業がある。「ギャツビー」
や「ルシード」といったヒット商品を



世に送り出してきた化粧品メーカー、
株式会社マンダムだ。



インドネシアでは女性の社会進出を目指し、美容や接客などの知識を伝えるセミナーも実施している

1958年に海外に進出し、アジア
各地で事業を展開。国ごとのニーズに
合わせた商品を開発し、インドネシア
では一つの商品に7種類のサイズを設
けた。小分けにする
ことで低価格にし、
低所得の人でも手が
届くように工夫した
のだ。マンダムの海
外市場での売り上げ
は、全体の約4割も
占めている。
このようにアジア
での事業展開を進め



グループ会社のマンダムインドネシアでは約4,500人の地元の人々を雇用

人を育てることは 会社を育てること

鈴木さんが派遣されたのは、カンボ
ジアの中でも貧困層が多い南東部のス
バイリエン州。配属先の農業局に着い
て早々、住民の生活向上に向けて担当
するはずだった事業が中止になったと
知る。「これから自分で仕事を探さなけれ
ばならず、できることは何か必死に考
えました」。

る同社は今、どこで誰と仕事をしても、
臨機応変に対応して成果を出せる人材
育成に力を入れている。その一つとし
て設けたのが、若手の社員を1年間の
海外研修に派遣する海外トレーニー制
度。同社の海外拠点がある国・地域に
派遣して語学や実務経験を積む「マー
ケティングコース」や「製造コース」に
加え、拠点が無い国に青年海外協力隊
員として派遣するのが「JICAコー
ス」だ。人事部の田口逸郎さんは、「頼
れる人間がいけない場所、自らやるべ
きことを探して取り組むことで、仕事
に必要な本質的な部分が見えてくるは
ず。創造力や思考力を身に付けて成長
してほしい」と話す。

このコースの1期生としてカンボジ
アで活動したのが、大阪営業所の鈴木
貴之さんだ。「私にとって海外は未知の
世界。営業職として4年間働き、新し
い環境に飛び込んで視野を広げたいと
思っていたところでした」と振り返る。

帰国後は、京都エリアのドラッグス
トアを営業で回っている鈴木さんだが、
仕事に取り組む姿勢が変わったと話す。
「カンボジアでは住民から直接ニーズを
聞き、どう応えるかを常に考えていま
した。その経験から、日本でもよりお
客様の立場に立つことを心がけるよう
になりました」。こうした話を聞き、田
口さんは途上国での研修の意義を確信
した。「ただ商品売り、売り上げを伸
ばすのではなく、お客様が本当に求め



ワルンと呼ばれるインドネシアの売店では、
小分け袋のマンダムの商品が売られている

そこで農業局の職員に聞いて回り、
彼らを取り組んでいる事業について情
報収集。その中で自分が力になれるか
もしれないと感じたのが、バイオガス
の普及プロジェクトだった。ガスも電
気もない生活を送る人々が多いこの地
域。家畜のふんを発酵させてガスを発
生させる設備を各家庭に導入すれば、
ガスで料理をしたりガス灯を利用した
りできる。

しかし、担当の職員は事務作業に追
われ、村をあまり訪問していないこと
に気付いた鈴木さん。そこで、彼らに
声をかけて導入が進んでいない村を回
り、クメール語で住民たちと話し、バ
イオガスにどんなメリットがあるか伝
えた。足で稼ぐ[※]のは、まさに営業職
の腕の見せ所だ。「最初はただの外国人
として私に接していた職員たちが、一
緒に活動するにつれて同僚として接し
てくれるようになったのがうれしかっ
た」と笑顔を見せる。

この商品は届け、喜んでもらうこと
が営業の本来の目的。日常業務に追わ
れるとその本質を忘れがちですが、協
力隊の経験を生かし、業務上当たり前
になっていたことに疑問を持ち、新た
な提案を発信してほしい」と期待する。
これからも、アジア各地で人々の生
活に役立つ提案をしていきたいと考え
ているマンダム。鈴木さんのような広
い視野を持つ人材が、その原動力にな
っていくに違いない。

※グローバル人材の育成に向けて、民間企業に青年
海外協力隊を活用してもらおうと、受入国・期間、
職種など各企業のニーズを踏まえてアレンジでき
るオーダーメイドの派遣制度。



現在、協力隊員としてフィ
リピンで活動する「JICA
コース」2期生の川崎弘
助さん。トウモロコシから
作ったコーヒーの販路開
拓を目指す

カンボジアで協力隊員として活動した
鈴木さん。村を回って住民がどんなこ
とに困っているのか課題を聞き取った

